

## グループワークの振り返り

令和5年度第3回相談支援部会（令和6年2月29日）にて意見交換を行った「（1）事例検討」及び「（2）地域課題の整理」について、各グループで出された内容を以下のとおり整理したため共有する。

### 1 「事例検討」の意見

#### （1）相談支援専門員の役割に関すること

- ・計画相談員が、第三者の立場で本人と保護者の間に入って、「いざ」というときにどう動くかを話し合っておけるとよかった。
- ・本音を話すためには定期的に会うことが大切。世間話の重要性。
- ・緊急時の動きを関係者間で共有、何か起こる前に役割を明確化しておくことが大切という意見が全員統一していた。
- ・緊急発生時の入口、誰がどのように。かつ、入口も複数あると良い。
- ・親御さんの気持ちを変える方法として、今回の事例のようなことを伝える。将来的にあぶないですよという危険性を少し大げさに伝えていき介入したりしている。

#### （2）体験利用に関すること

- ・母の、本人と離れたくないという希望を汲み、近くの施設で体験入所ができていればよかった。
- ・早めに短期入所のサービス利用を促す必要がある。
- ・体験しておくことで円滑な支援に繋がる。

#### （3）体制に関すること

- ・親亡き後に備えるのも大事だが、親がいるうちから、親と障がい者本人両方が支援を受けられるような「家族丸ごと支援」の体制が必要。
- ・障がい福祉サービスと介護保険サービスで分断されてしまい、本人が置いてきぼりになってしまっている。両方のサービスが受けられるような体制が必要。
- ・相談員の言葉が入らないときもあるため、相談員からのアプローチだけでは難しい。その場合は、ご家族の力が必要であればご家族から、あとはピアの力を借りるなど、別の角度からのアプローチが必須である。
- ・何か起きる前の対策としては、区の体制整備として統一された安心支援プランが有効。

#### （4）家族に関すること

- ・本人視点からこの事例を見た時、目の前で突然母が倒れ、自分はいきなり遠方の知らない場所に連れていかれた状況だったと考えると、とてもショックを受けてしまっていると思う。日頃から、保護者が本人の立場に立ってこれからの生活のことを考えられているかも重要。
- ・家族間で踏み込めないところがある。家族以外が関わる場所が大切なこと。

## 2 「地域課題の整理」の意見

### (1) 基幹相談支援センターの機能強化について

#### ①相談支援体制に関すること

- ・オンラインで行える相談支援事業所の支援体制があると良い。精神障がい者の相談については、どこまで相談にのってもらえるのかが不明。
- ・基幹相談支援センターに相談していいという周知がどこまでなされているのか曖昧。

#### ②関係機関との連携に関すること

- ・アウトリーチ事業を行っているが、他の相談支援事業所が何に困っているのかわからない。事業所の困りごとについて、共有化できるものがあれば。

#### ③相談支援専門員の育成に関すること

- ・人材育成は何を持って成果というかが難しい。
- ・連絡会の出席率が低い。ハイブリッドなどの対応が必要。なぜ参加しないのかを情報共有する。
- ・1人事業所だから、という理由であれば日時などを検討し、1人事業所を対象とした集会や懇談会などを企画してはどうか。

#### ④その他

- ・基幹相談支援センターは1か所で頑張っているが、1か所だけでは足りないのではないかな。
- ・(障がい福祉サービスごとにまとめた) 社会資源ガイドマップの作成や更新まで基幹がする必要があるのか。そのような仕事は委託でスリム化することが望ましい。やるべきことに集中して欲しい。
- ・基幹相談支援センターの話とは逸れるが、(受給者証の) 更新時期をずらしてもらえれば、計画相談支援を受けられるのに、という思いはある。

### (2) 地域生活支援拠点等の整備

#### ①ニーズに関すること

- ・当事者のニーズは実際どうなのか。拠点の整備は、国が押し出しているから、あるいは、支援者側が整っておけば緊急時支援がスムーズにいくから、という理由なのではないか。障がい当事者が拠点の整備をどう思われているのか、どこまで必要と思っているのかが不明。
- ・拠点ではないかもしれないが、他県の取組で、親子で入所できる施設があった。親子が安心して地域で過ごせるという視点を考えると、本当の意味でこのような複合した施設が板橋にあったらいいのではないかな。
- ・安心支援プランは、どちらかというと支援者側が嬉しいプランではないかな。
- ・今後の部会での取組として、例えば当事者家族への拠点に関するニーズ調査をやってもいいのではないかな。

## ②啓発に関すること

- ・地域生活支援拠点の整備が福祉分野ということはなんとなく知っているが、それ以外は、このような場に来ないとわからない。
- ・板橋キャンパス跡地整備事業に期待が大きかった。その事業が延期したため、区内周知という点ではそこまで範囲を広げていない。

## （３）相談支援・障がい児相談支援の充実

### ①相談体制に関すること

- ・緊急時、計画相談事業所とつながっているかどうかで、安心度合いが違う。何かあったときに相談できる体制をつくるためには、一般相談の充実が必要。必要な時に登録して、平常時は支援が必要ないが、相談したいことができた時に話せる場所があればよい。

### ②障がい児相談支援・セルフプランに関すること

- ・障がい児の通所支援は、事業所も増加していることから、セルフプランでのスタートでも良いと思う。しかし、ずっとセルフプランで利用するのではなく、どこかのタイミングで相談支援事業所の利用に切り替えてもらうことも必要。
- ・相談支援事業所に頼むことが面倒、セルフプランのやり方から変更したくないという保護者もいる。
- ・障がい児相談支援プランを作成する際、保育園など、本人の支援に関わっている人も含めて作成できるとよい。計画相談と本人を取り巻く支援者のパートナーシップが必要。

### ③相談支援専門員の役割に関すること

- ・中立な立場で支援をする人が必要。それこそ相談支援専門員の役割だと思う。

### ④その他

- ・書類を作成しないと報酬がでない。一般相談では、時間をかけて対応しても福祉サービスに繋がらない方もいるが、その場合、報酬が発生しないため、事業の継続が厳しい。